

開倫塾塾生の皆様

文章作成練習の第一歩は、名文の書き写し練習。  
教科書と新聞のコラム・社説の書き写しを毎日行おう

開倫塾  
塾長 林 明夫

開倫塾の創業者で、塾長の林明夫です。

1. (1) 学校の定期試験や入学試験、就職試験など多くの試験で、記述式試験や論文試験の割合が増加しています。  
(2) 大学のAO入試や難関大学の2次試験は、ほとんどが記述式試験や論文試験となりつつあります。大学入試の英語にも「書く能力」と「話す能力」が加わります。  
(3) 記述式試験や論文試験対策の第一歩は文章作成能力の育成ですので、どのようにしたらよいか考えます。
2. (1) 文章作成練習の第一歩は、名文・よい文章の書き写し練習です。  
(2) 毎日、一定の時間、ノート、できれば、原稿用紙を使って名文・よい文章の書き写し練習に励めば、だれでも必ずよい文章が書けるようになります。
3. (1) どのような文章が名文・よい文章か。  
(2) 私が塾生の皆様におすすめするのは、学校や開倫塾の国語の教科書・テキストに掲載されている文章です。社会や理科の教科書・テキスト・資料集で紹介されている、各分野の著名人のことばもおすすめです。  
(3) 新聞各紙の一面の下のほうにある「コラム」の書き写しもおすすめです。新聞各紙の「社説」や気になる「記事」の書き写しもおすすめです。  
(4) さらにおすすめなのが、本を読んでいて「気に入ったところを書き写す」ことです。「たとえ1行でもよいから、気に入ったところを書き写す」こと。お気に入りのノートに書き写して、「書き抜き読書ノート」を作ることをおすすめします。
4. (1) 学校や開倫塾の教科書に掲載されている文章は、編集者の方が選びに選び抜いた文章ですので、書き写し練習に適しています。  
(2) 新聞各紙の「コラム」や「社説」は、その新聞社で最も文章が上手な方が担当し、推敲(すいこう)に推敲を重ねてから掲載していますので、書き写しの練習にはもってこいの教材です。

(3) 自分で読書をしていて、お気に入りのところを「書き抜き読書ノート」に書き写すことも素晴らしいと思います。

5. (1) 書き写した文章は、必ず何度か音読をして、スラスラとよく読めるようにしましょう。  
(2) できれば、何も見ないで言えるまでにすること。「暗唱」できるまでにすること。  
(3) さらに、何も見ないで書けるまでにすること。「暗記」できるまでにすること。
6. (1) 教科書の文章をそのまま覚えると、塾生の皆様の教養の一部となり、豊かで充実した人生を送る上で一生役に立ちます。  
(2) 国語だけでなく、各教科の教科書に取り上げられている内容で大切なところを、よく理解したうえでそのまま覚えることも、豊かで充実した人生を送る上で一生役に立ちます。
7. (1) 名文・よい文章は、平成の時代に書かれた文章だけではありません。  
(2) 明治・大正・昭和の時代に書かれた文章にも、優れたものがたくさんあります。  
(3) 飛鳥時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町（足利）時代、戦国時代、江戸時代に書かれた「古文」と呼ばれる文章にも、優れたものがたくさんあります。古文も書き写して学び、自分のものにしましょう。  
(4) 歴代中国の名文も、「漢文」として国語で学ぶことができます。例えば、「四書」、つまり、「論語」「孟子」「大学」「中庸」からは、仁（愛）・徳（人格）ともにそなえた立派な人物・リーダーとは何かが学べます。漢文も、書き写して学ぶに値します。  
(5) 名文・よい文章は、日本と中国だけでなく、世界の国々・各地域にもたくさんあります。

#### 8. <最後に一言>

- (1) 日本語の文章を書き写すときは、「横書き」でもよいですが、「縦書き」をおすすめします。
- (2) 書き写すのは「ノート」でもよいですが、「原稿用紙」をおすすめします。
- (3) 「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾・塾長、小泉信三先生の名言があります。
- (4) 教科書や新聞のコラム・社説などの書き写し練習は、文章作成能力の育成を可能にします。
- (5) 学校の教科書で紹介されている文章は、ページ数の関係でその作品の全文ではないことが多いようです。気に入った作品は、図書館などで探して全文を読んでみましょう。その作家が気に入ったら、代表的な作品を少しずつ読んでみましょう。一生かけて、何年かに1回ずつ同じ作品を読んでみましょう。
- (6) 学校での勉強は、一生かけての勉強の第一歩にすぎません。大切なのは、学校を卒業してからの学びです。

ぜひ挑戦をお願いいたします。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

2016年11月25日（金）8時00分